

ドクター+7ジ

「ここ数年は、テレビに出演されることは少なくなっていました。去年12月に次男で俳優の頼さん(38)と一緒に『徹子の部屋』に登場。かなり痩せられ、面変わりされています。このときすでに病気が進行していたようですが、元気に話をされています。」

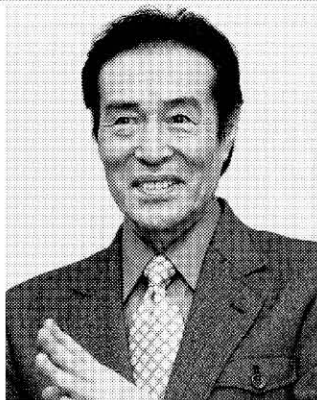
あれから半年がたった6月18日に死去。80歳、胆のうがんでした。頼さんによれば、今年3月に体調を崩

ニッポン ドクター和の 臨終図巻



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「葉のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

64 加藤剛



揺らがぬ心まっとうした人生

胆のうは肝臓の下にあり、肝臓で作られた胆汁(脂肪を消化するための液体)を溜めておくための臓器です。長さ10センチ、幅は4〜5センチほどで洋梨のような形をしています。

加藤さんがそうであったように、胆のうがんは、自覚症状がとぼしく早期発見が困難ながんの一つです。体重の減少、食欲不振、腹の右上あたりの痛みや膨満感、黄疸(おうだん)などが症状としては挙げられますが、これらの症状が出てきたときにはもう、かなり進行した状態である場合が多いのです。

なぜ胆のうがんになるのか。明確な原因はまだ不明です。多くの人が持っている胆石との関係もまだ十分に解明されていません。ただ昨今、「先天性膝胆管合流異常」といって、生まれつき膵管と胆管が十二指腸壁の外で合流部分に奇形がある場合に、リスクが高いことがわかってきました。

この異常は、腹部CT検査や胆のうポリープの精密検査の際に偶然に発見されることがあり、場合によっては予防的に胆のうの摘出を勧められ

酒も飲まず、タバコも吸わず、ギャンブルとは無縁。加藤剛さんは昭和の大スターでありながら、豪放な「伝説」とは無縁の生真面目な二枚目俳優でした。

「ここ数年は、テレビに出演されることは少なくなっていました。去年12月に次男で俳優の頼さん(38)と一緒に『徹子の部屋』に登場。かなり痩せられ、面変わりされています。このときすでに病気が進行していたようですが、元気に話をされています。」

あれから半年がたった6月18日に死去。80歳、胆のうがんでした。頼さんによれば、今年3月に体調を崩

形をしています。

加藤さんがそうであったように、胆のうがんは、自覚症状がとぼしく早期発見が困難ながんの一つです。体重の減少、食欲不振、腹の右上あたりの痛みや膨満感、黄疸(おうだん)などが症状としては挙げられますが、これらの症状が出てきたときにはもう、かなり進行した状態である場合が多いのです。

なぜ胆のうがんになるのか。明確な原因はまだ不明です。多くの人が持っている胆石との関係もまだ十分に解明されていません。ただ昨今、「先天性膝胆管合流異常」といって、生まれつき膵管と胆管が十二指腸壁の外で合流部分に奇形がある場合に、リスクが高いことがわかってきました。

この異常は、腹部CT検査や胆のうポリープの精密検査の際に偶然に発見されることがあり、場合によっては予防的に胆のうの摘出を勧められ

「松が枝の 直ぐなる心 保ちたし 柳の糸の なべて世の中」

これは大岡越前が詠んだ和歌です。世間に流されて生きるのではなく、松の枝のように揺らがぬ心でありたい…まるで加藤さんの人生を諷ったようにも感じます。

膨満感、黄疸(おうだん)などが症状としては挙げられますが、これらの症状が出てきたときにはもう、かなり進行した状態である場合が多いのです。

なぜ胆のうがんになるのか。明確な原因はまだ不明です。多くの人が持っている胆石との関係もまだ十分に解明されていません。ただ昨今、「先天性膝胆管合流異常」といって、生まれつき膵管と胆管が十二指腸壁の外で合流部分に奇形がある場合に、リスクが高いことがわかってきました。

この異常は、腹部CT検査や胆のうポリープの精密検査の際に偶然に発見されることがあり、場合によっては予防的に胆のうの摘出を勧められ

加藤さんもおそろく、発見時に手術の適心がない状態だったのではないしょうか。高齢を考えると、亡くなる3カ月前までがんと知らずに、ごく普通に暮らしていたというのは、決して不幸とは思いません。がんとうまく共生ができていた、天寿がんとも言えるでしょう。亡くなる日の朝までご家族と会話し、穏やかに過ごされたそうです。